

## 「若狭湾 海の自然学校」

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
20	58	20	20 (福井2・滋賀5・京都5・大阪3・奈良2 愛知1・富山1・千葉1)

### 2. 事業内容（概要）

#### ◆ねらい

- ・長期宿泊体験を通して、仲間の協調性を養うと共に、活動意欲を向上させる。
- ・自然に直接触れ合う活動を多く取り入れることにより、遊び心を刺激し、前向きに挑戦する姿を育てると共に、自然環境に対する畏敬の念を育てる。
- ・海を様々な角度から体感することを通して、広い視野を持った豊かな人間性を育てる。
- ・当施設のフィールドを広く工夫活用し、その活用法を、他の教育施設や一般利用団体にも広く普及することを目指す。

#### ◆期日・期間

平成25年8月18日（日）～8月24日（土）<6泊7日>

#### ◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・地元福井をはじめ、関東・北陸・関西と広範囲から58名の応募があった。
- ・事業の内容・ボランティアスタッフの人数などを考慮し、6年生7名・5年生7名・4年生6名に配分し、抽選し決定した。

#### ◆企画のポイント

月 日	内 容		宿泊場所
8月18日（日）	海と出会う	<始まり式、オリエンテーション、目標設定>	宿泊棟
19日（月）	海と仲良く	<スノーケリング練習>	宿泊棟
20日（火）	海と遊ぼう	<シーカヤック練習>	宿泊棟
21日（水）	海をわたる	<阿納浜へ移動 阿納の浜でのキャンプ①>	阿納（テント泊）
22日（木）	海で生きる	<阿納の浜でのキャンプ②>	阿納（テント泊）
23日（金）	海を越える	<無人浜での生活の振り返り、片付け>	宿泊棟
24日（土）	海との別れ	<振り返り、終わり式>	宿泊棟

「シーカヤック」講師 グランストリーム 大瀬志郎・久我弘道 氏

- ・「海」を中心に、アクティブな活動にチャレンジさせられるようなプログラムを準備した。
- ・7日間の指導を一貫したものとするため、活動のテーマを「自然のまなび人」と題して、海のダイナミックさ・すばらしさを十分に感じられるようにプログラムを構成した。

#### ◆運営のポイント

- ・終日参加できるボランティアスタッフが8名いたので、4班編制で班付きリーダー各1名および全体指揮リーダー1名で、システムを組み運営した。また4名の方に活動全体を支援するために役割を明確に分けて運営を進めることにした。途中で帰るボラ、途中から参加するリーダーについては全体運営のサポートに回り、班付きリーダーを援助した。
- ・子どもたち同士による人間関係の成長を促すため、課題解決等じっくり取り組ませることを心がけ、班での話し合いや打ち合わせの時間を十分にとりながら進行していった。

#### ◆安全管理のポイント

- ・海の活動では、命に関わる事故・けがが十分考えられるため、経験を十分に積んでいる専

## 青少年育成事業

- 門家に指導・助言いただき、的確な状況判断と参加者の安全管理につとめた。  
・参加者の健康状況を常に把握し、負担にならぬよう随時細かな変更をしながら実施した。

### 3. アンケート結果

#### (1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	70%	30%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	60%	25%	15%	0%
この事業の運営はどうでしたか	70%	30%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

#### (2) 参加者の声

- ・知らない友だちと、仲良く慣れた。
- ・成長したと感じた。
- ・海の生き方を大切にしたい。(助け合う)

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

- ・最初は、個々に思い通りの活動をしたがった姿がよく見られたが、活動を進めるうちに協調性が高まり、自然と協力しながら活動を進める姿が見られるように変容した。
- ・時間に余裕をもって、自然の中で生活し、1つ1つの活動をやりきり、自然への探求興味関心を積み上げることができた。
- ・シーカヤックを含めた「無人浜生活」では、海からのめぐみや海をわたることの自己肯定感を得ることができ、自然とともに生活してきた状況を改めて感じることができ、自然のすごさを十分に体感することができた。
- ・6泊7日に短縮したことで活動フィールドが縮小し、そのために準備も軽減することができた。特に今年度は宮の浜での活動に特化することで、動きをそれに向けて集中させることができた。そのため、ボラの自分の動きが見えやすくスムーズに活動を進めることができた。

#### (2) 課題

- ・今年の特徴として、ホームシックになる子どもが多かった。ボラや周りの友だちの支援によって全員最後まで参加することはできたが、7日間でもその気持ちをもたせることが難しい。今後より達成感と目当て意識をもたせるための手立てが必要であろう。
- ・子どもの荷物を取り違えられるなどのトラブルがあった。事前の人員配置などを含めより細部まで検討する必要がある。
- ・今年度は、昨年度までに自然学校を体験したボランティアが少なかったため、自分の経験則をもとに話し合い、効果的に活動を進めるためにそれぞれが考えながら実践しようと頑張ってくれた。しかし、適切に助言し合ったり、確認しあったりするような場面が見られなかったように感じる。リーダーのあり方など、こちらから積極的に助言する必要があった。

### 5. 活動の様子



【最初の班会議】



【テント設置練習】

## 青少年育成事業



【スノーケリング】



【桟橋でダイビング】



【シーカヤック】



【シーカヤックで無人浜へ】



【無人浜生活①】



【無人浜生活②】



【無人浜生活③】



【魚をさばく】



【無人浜を旅立つ】



【ふりかえり】



【修了式（修了証授与）】